

# 甲状腺外科草子 99

## 西洋医学伝播：津山(後)

杉野 圭三

津山洋学資料館は津山市内の幹線道路から外れた細い旧道沿いにあり、ナビを使っても迷いやすい場所である。



資料館入口

先駆者達の銅像

資料館敷地は広く前庭には地域の洋学者たちの銅像が展示されている。訪れた日は地元の小学生たちの見学日であり、多くの子供たちが真面目に(?)、賑やかに楽しんでた。

津山での洋学発展には宇田川玄随(1755-1797)が大きな役割を果たした。



宇田川玄随

西説内科撰要

玄随は解体新書の翻訳者の一人である桂川甫周の弟子で西洋内科学書の翻訳を試みた。しかし、志半ばで亡くなり、その後は養子の玄真が引き継ぎ「西説内科撰要」として刊行に至った。



解体新書

ターフェル・アナトミア

多数の展示品の中には解体新書もあったが、原本となる「ターフェル・アナトミア」も展示されていたのは珍しい。

洋学に貢献したのは宇田川一族以外にも、箕作一族、石井宋謙、津田真道、菊池大麓、

久原躬弦、久原洪哉、岸田吟香、小林令助、原村元貞、仁木永祐、山田純造、芳村杏齋など多士済々の顔ぶれである。

中でも、箕作阮甫(みつくりげんぽ、1799-1863)は宇田川玄随の養子玄真に洋学を学び、41歳で幕府の蕃書和解御用(外国文書翻訳)、58歳で蕃書調所(洋学研究・教育機関)の教授となった。和蘭文典(オランダ語の学習書)、泰西名医彙講(オランダの医学書、雑誌を編集)を刊行した。



箕作阮甫



和蘭文典



泰西名医彙講

和蘭文典(1842-1848)や泰西名医彙講(全8冊、1836-1842)は緒方洪庵らも協力し、適塾や蕃書調所でも使用された。出版費用に困った阮甫は自分の衣服を質に入れたと伝わる。



山田家伝来の手術器具

同華岡流手術器具

当地で活躍した山田家には当時の手術器具をはじめとする多くの資料が残り、展示されていた。津山の先人たちの努力と業績に深い感銘を受けた。なお、「山田家の人と学問」は最後の一冊で、もう残っていません(悪しからず!)



参考:「資料が語る津山の洋学」など、Wikipedia

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年4月25日